

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【台東区総合学力調査】
 調査対象 台東区蔵前小学校 第5学年
 実施日 令和4年4月18日
 実施教科 第5学年 算数

第5学年 算数

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

3観点とも目標値を上回っている。主体的に学習に取り組む態度が、知識・技能の定着、思考・判断・表現の力を高めている。

◇正答率度数分布グラフから

最も分布が多い階級は正答率50～59%、70～79%で18%であり、正答率50～99%の範囲で広く分布していた。

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	目標値	区	全国
評価の観点	知識・技能	73.6	69.3	72.7	67.4
	思考・判断・表現	56.9	51.0	52.9	45.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.5	51.4	52.0	45.5

(2)結果から明らかになった課題

算数	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の作図の正答率は52%と低かった。 ○思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・「変化と関係」の領域で、目標値を2.3%下回っている。「折れ線グラフと表」の二次元表を活用したデータの読み取り方の問題は正答率20.9%だった。 ○主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・解答形式が記述の問いでは、目標値を2.0%下回っている。分数の加法の計算の仕方、面積の単位の関係を説明する問題の正答率はそれぞれ26.7%、31.5%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> →平行四辺形の図形の特徴を理解し、その性質を使って作図する。 →二つのデータの差を求めるために必要な情報を、二次元表から読み取る。 →問いの答えを出すだけでなく、どのように思考し解を導いたのかを文章で説明する。

2 改善策

(1)具体的な改善策

算数	○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・作図をする際にどの構成要素を必要とするかを理解したり、作図の手順の復習をしたりすることで作図の技能を高める。
	○思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・二次元表が表す事項の読み取り方を理解し、問題解決に必要な情報を選ぶことができるよう、課題を設定する。一人一台端末を活用し、反復学習を行う機会を設ける。
	○主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章で表すことができるよう、学習内容をまとめたり、学習感想を書いたりする学習活動を毎時間取り入れ、発表やノートの内容を適切に評価し、児童にフィードバックする。

(2)改善策(手だて)に対する検証

単元の終わりに単元テストや東京ベーシックドリル診断を実施し、学習の定着を評価する。学期末に復習の機会を設け、定着の不十分なところを反復学習で身に付けていく。